

中小企業診断士試験



出る順診断士令和4年1次本試験解説



財務・会計



【令和4年度の出題分析】“難易度が二極化”

1-1 講評

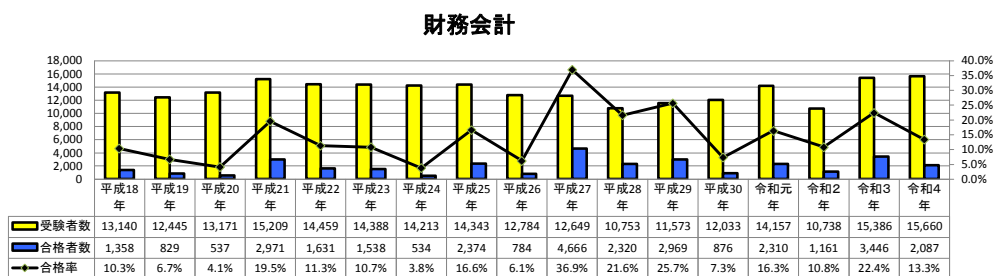
令和4年度の財務・会計は、難易度については、昨年よりは高かったものの、長期的にみると平均的であった（合格率13.3%¹）。LEC解答リサーチによる平均点は57.4点であり、難易度の高くない問題を落ち着いてある程度得点していけば、合格点（60点）を超えることは十分に可能であったといえる。

出題分野については、会計分野（制度会計、管理会計）から15問（小問レベル）、財務分野から11（小問レベル）であり、各分野からバランスよく出題されていたといえる。

計算問題と知識問題の割合については、知識問題が14問、計算問題が11問である。知識問題の割合の方が大きくなっており、ここ数年この傾向が継続している（以前は、知識問題と計算問題が約半分ずつであった）。

本年度の問題の特徴は、合格するために確実に得点すべき比較的易しい問題が相当数ある²一方で、ほとんどの受験生が論点さえ知らないと思われる問題³も多数出題されていたことであり、全25問の中で難易度が二極化していたといえる。

表1 受験者数、合格者数の推移（財務会計）



※本統計の合格者数に一次試験合格者（二次試験へ進む受験生）は含まれないが、難易度の推移をみる上では参考となる。

¹ 一般社団法人中小企業診断協会 中小企業診断士試験の情報より算出

² 第2問、第3問、第5問、第6問、第8問、第11問、第12問（設問2）、第14問、第16問、第19問、第21問 ⇒これら11問を正解すれば44点は取れる！

³ 第4問、第7問、第9問、第15問、第17問、第18問

1-2 出題領域

全体的に様々な分野からバランス良く出題されていた。

診断協会発表の出題分野」から見た「今年度(令和4年度)の出題分野」の分析

1次試験（財務・会計）出題分野			令和4年1次 （財務・会計）問題	
※診断協会発表の「試験科目設置の目的と内容」より。				
大分類		小分類		
会計	(1)簿記の基礎	簿記原理 会計帳簿 決算処理一巡	■	■第01問 銀行勘定調整
	(2)企業会計の基礎	損益計算書	■	■第02問 貸借対照表等式
		貸借対照表	■	■第03問 収益認識(損益計算)
		キャッシュフロー計算書	□	■第04問 外貨建取引
		企業結合	□	■第05問 無形固定資産
		会計ディスクロージャー	□	■第06問 非原価項目(原価概念)
税効果会計		■	■第07問 繰越欠損金の扱い	
財務	(3)原価計算	原価概念 原価計算の種類と方法	■	■第08問 預り金(債務の会計)
	(4)経営分析	経営比率分析	□	■第09問 退職給付会計
		損益分岐点分析	■	■第10問 自己株式の会計処理
		利益増減分析	□	■第11問 減価償却
	(5)利益と資金の管理	利益計画	□	■第12問(1) 直接原価計算
		予算・実績差異分析	□	■第12問(2) 損益分岐点分析
財務	(6)キャッシュフロー(CF)	資金繰りと資金計画	■	■第13問(1) 資金残高の管理
		CFの種類と算出 CFマネジメント	□	■第13問(2) 運転資本の管理
	(7)資金調達と配当政策	資金調達の形態	□	■第14問 貸付金の現在価値
		資本コスト	□	■第15問 リスクの計算
		配当政策	□	■第16問 リスク資産と安全資産への投資
	(8)投資決定	最適資本構成	□	■第17問 サステナブル成長率
		貨幣の時間価値と割引CF	■	■第18問 割引超過利益モデル
	(9)証券投資論	投資評価基準	■	■第19問 企業価値評価アプローチ
		不確実性下の投資決定	■	■第20問 先物取引・先渡取引
	(10)企業価値	ポートフォリオ理論	■	■第21問 投資評価方法の特徴
		資本市場理論	□	■第22問 リスクがある場合の割引現在価値
株価の算定		□	■第23問 各種の配当政策の特徴	
財務	(11)デリバティブとリスク管理	企業価値評価モデル	■	
		企業合併・買収の企業評価	■	
		リスクの種類	□	
		オプション取引	□	
財務	(12)その他財務・会計に関する事項	先物取引	■	
		スワップ	□	
		－	－	

※下線は、計算問題であることを示す。
(25問中11問が計算問題)

※下線は、計算問題であることを示す。
(25問中11問が計算問題)

1-3 正答率一覧

正答率から見た難易度の分布は、以下のとおりであった。

●必達（全体正答率が60%以上）：10問（40点分）

●合否を分けた問題（科目合格者の正答率のみが60%以上）：9問（36点分）

●難問（科目合格者の正答率も60%未満）：6問（24点分）

通し番号	問題	設問	重要度	解答	正答率			分 類		
					科目合格	全体	科目不合格	必達	合否を分けた	難問
1	第1問			イ	67.8%	54.0%	39.9%		○	
2	第2問			イ	86.2%	69.7%	52.7%	○		
3	第3問			イ	87.5%	78.7%	69.6%	◎		
4	第4問			イ	69.7%	59.3%	48.6%		○	
5	第5問			ウ	56.6%	49.0%	41.2%			○
6	第6問			エ	71.1%	59.3%	47.3%		○	
7	第7問			ウ	69.1%	53.7%	37.8%		○	
8	第8問			イ	77.6%	63.0%	48.0%	○		
9	第9問			エ	47.4%	40.7%	33.8%			○
10	第10問			イ	64.5%	53.7%	42.6%		○	
11	第11問			ウ	72.4%	63.3%	54.1%	○		
12	第12問	設問1		ウ	74.3%	65.7%	56.8%	○		
13		設問2		ウ	88.8%	78.0%	66.9%	◎		
14	第13問	設問1		イ	80.3%	63.7%	46.6%	○		
15		設問2		ウ	90.1%	83.0%	75.7%	◎		
16	第14問			エ	62.5%	48.3%	33.8%		○	
17	第15問			ウ	41.4%	34.3%	27.0%			○
18	第16問			エ	46.7%	40.7%	34.5%			○
19	第17問			エ	71.1%	56.0%	40.5%		○	
20	第18問			ア	30.9%	22.3%	13.5%			○
21	第19問			ア	57.2%	43.7%	29.7%			○
22	第20問			ウ	86.2%	77.0%	67.6%	◎		
23	第21問			エ	72.4%	59.7%	46.6%		○	
24	第22問			エ	72.4%	62.3%	52.0%	○		
25	第23問			イ	65.8%	55.0%	43.9%		○	

合格（60点獲得）のイメージ例 ⇒ 『1：1：1モデル』

理 解 度	分 か る	二 択 に 絞 れ る	分 か ら な い
問 題 数 の 比 率	1 / 3	1 / 3	1 / 3
得 点 確 率	100%	50%	25%
得 点 期 待 値	100点×(1/3)×100% = 33.3点	100点×(1/3)×50% = 16.7点	100点×(1/3)×25% = 8.3点
	合計：約60点 ⇒ 合格レベル！		
使 う 実 力	知 識 で 判 断	知 識 で 類 推	常 識 で 判 断
	知 識	力 解 答	力 神 頼 み 力

1-4 類似出題

「本試験過去問」から見た「今年度(R4)の出題分野」の分析

R4 1次問題 番号	出題分野	類似・関連の本試験過去問 (5年以内) (5年超)	
1	銀行勘定調整	R1-4	H27-3
2	貸借対照表等式	—	H19-1
3	収益認識	R3-6	H18-3
4	外貨建取引	—	—
5	無形固定資産	R2-8	—
6	非原価項目	—	H28-6、H27-6、H25-9、H24-6
7	繰越欠損金の扱い	—	—
8	預り金	—	—
9	退職給付会計	—	H23-4
10	自己株式の会計処理	R3-16	—
11	有形固定資産の減価償却	—	H16-13(5)、H15-4
12(1)	直接原価計算	—	H28-8
12(2)	損益分岐点売上高	R3-12、R2-21(1)	H27-10(1)、H17-5(1)
13(1)	資金残高の管理	R3-13	—
13(2)	運転資本の管理	R3-9	H27-9、H17-11
14	貸付金の現在価値	—	H27-15(1)
15	リスクの計算（証券ポートフォリオ理論）	R2-19、H30-18	—
16	リスク資産と安全資産への投資ポートフォリオ	R3-20、R1-15、H30-17、H29-23	H28-18(1)(2)
17	サステイナブル成長率（配当政策）	—	※H22-19の誤選択肢として出題実績あり
18	割引超過利益モデル（企業価値）	—	H24-20(1)
19	企業価値評価アプローチ	R3-22(1)(2)	H26-20(1)(2)、H24-20(2)、H23-20、H17-12(1)(2)
20	先物取引・先渡取引	H29-21	H24-22、H18-12(1)
21	投資評価方法の特徴	R1-23	H25-17、H24-18、H20-23、H17-10
22	リスクがある場合の割引現在価値の計算	—	H19-16(2)
23	各種の配当政策の特徴	—	H22-19、H20-17

1-5 重要問題

必達問 令和4年度 第2問 貸借対照表

A、B、Cの各商店は、いずれも資産2,000万円、負債500万円を有する小売業であるが、あるとき各商店ともそれぞれ800万円で店舗を増築した。支払いの内訳は以下のとおりである。

- ・A店は全額を自店の現金で支払った。
- ・B店は建築費の半額を銀行より借入れ、残額を自店の現金で支払った。
- ・C店は全額、銀行からの借入れであった。

下表のア～オのうち、増築後の各商店の財政状態を示すものとして、最も適切なものはどれか。
(単位：万円)

	店名	資 産	負 債	純資産
ア	A	2,000	500	1,500
	B	2,000	900	1,100
	C	2,800	1,300	1,500
イ	A	2,000	500	1,500
	B	2,400	900	1,500
	C	2,800	1,300	1,500
ウ	A	2,800	—	2,800
	B	2,800	400	2,400
	C	2,800	800	2,000
エ	A	2,800	500	1,500
	B	2,800	900	1,500
	C	2,800	1,300	1,500
オ	A	2,800	500	2,300
	B	2,800	900	1,900
	C	2,800	1,300	1,500

【解答】

イ（配点4点）

【類似・関連の過去問】

平成19年 第1問

【解説のポイント】

Focus テキスト 4-1 簿記上の取引

Focus テキスト 5-4 純資産（株主資本等）の変動

必達問 令和4年度 第12問（設問2） 損益分岐点売上高

当工場では、単一製品Xを製造・販売している。以下の資料に基づいて、下記の設問に答えよ。

【資料】

当期における実績値は次のとおりであった。

製造原価	販売費及び一般管理費
直接材料費・・・・・・・・240 円／個	変動販売費・・・・・・・・100 円／個
直接労務費・・・・・・・・160 円／個	固定販売費・一般管理費・・50,000 円
製造間接費	
変動費・・・・・・・・100 円／個	
固定費・・・・・・・・200,000 円	

また、当期の生産量は1,000 個、販売量は800 個（単価1,000 円）であり、仕掛品および期首製品は存在しない。

（設問2）損益分岐点売上高として、最も適切なものはどれか。

- ア 400,000 円
- イ 500,000 円
- ウ 625,000 円
- エ 800,000 円

【解答】

ウ（配点4点）

【類似・関連の過去問】

令和3年 第12問、令和2年 第21問（設問1）、平成27年 第10問（設問1）

【解説のポイント】

Focus テキスト 3-1 損益分岐点比率の計算など

合否を分けた問題【問題】令和4年度 第6問 非原価項目

原価計算における非原価項目として、最も適切なものはどれか。ただし、すべて正常なものであるとする。

- ア 売上債権に対する貸倒引当金繰入
- イ 減価償却費
- ウ 仕損、減損、棚卸減耗損
- エ 支払利息

【解答】

エ（配点4点）

【類似・関連の過去問】

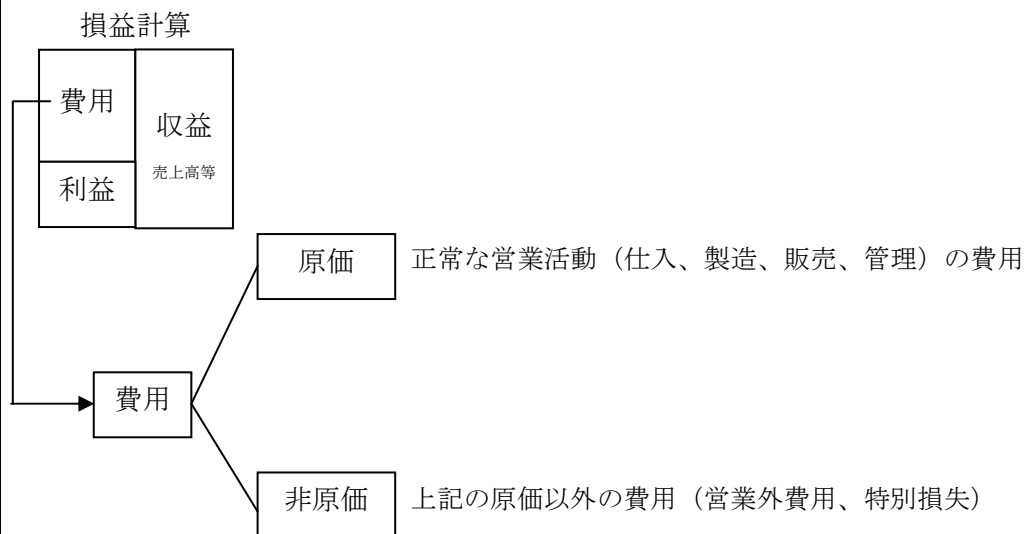
平成28年 第6問、平成27年 第6問、平成25年 第9問、平成24年 第6問

【解説のポイント】

Focus テキスト 4-1 簿記上の取引 ※費用とは何か？

Focus テキスト 1-2 損益計算書 ※費用（原価＋非原価）の具体的な項目

Focus テキスト 7-1 原価の種類 ※非原価項目とは、原価項目でないもの



合否を分けた【問題】令和4年度 第10問 自己株式の会計処理

自己株式の会計処理文章に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 自己株式の取得は、他社の株式を取得する場合と同様に処理される。
- イ 自己株式の取得は純資産の減少、自己株式の売却は純資産の増加として処理する。
- ウ 自己株式を消却した場合、その他利益剰余金が減少する。
- エ 自己株式を消却した場合、資産が減少する。

【解答】

イ（配点4点）

【類似・関連の本試験過去問】

令和3年 第16問

【解説のポイント】

Focus テキスト 1-3 貸借対照表

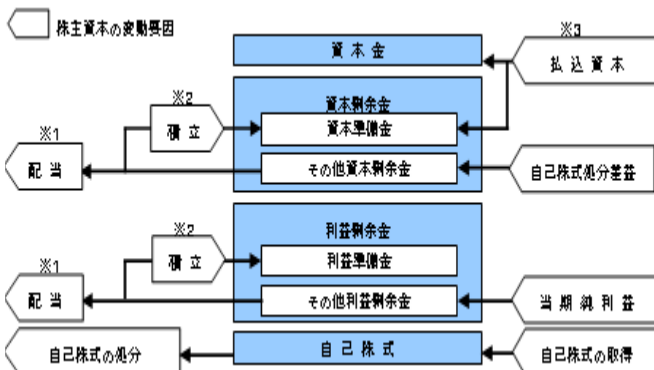
Focus テキスト 4-11 有形固定資産および有価証券の売却

Focus テキスト 5-4 純資産（株主資本等）の変動

貸借対照表

資産	負債
有価証券	純資産 自己株式

I. 株主資本



合否を分けた問題【問題】令和4年度 第17問

以下の資料に基づき計算したサステイナブル成長率（内部留保のみを事業に投資した場合の純資産の成長率）として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

【資料】

売上高	5,000 万円
当期純利益	200 万円
総資産	4,000 万円
純資産	1,000 万円
配当	80 万円

〔解答群〕

- ア 2%
- イ 3%
- ウ 8%
- エ 12%

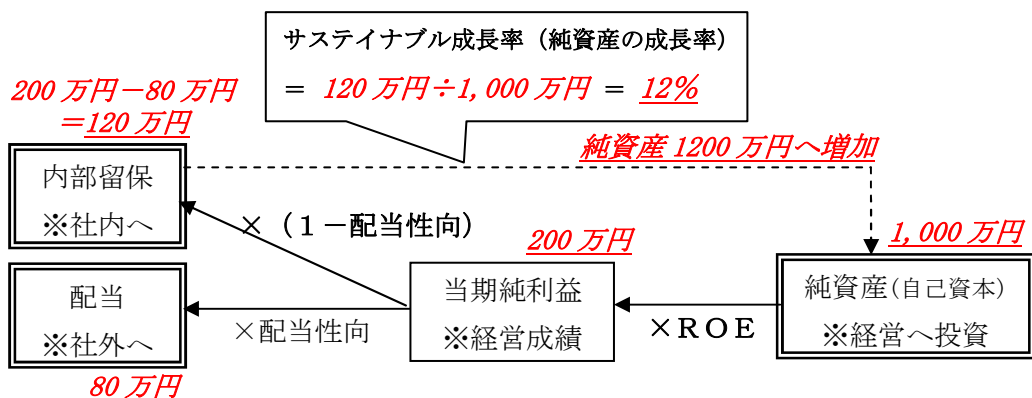
【解答】

エ（配点4点）

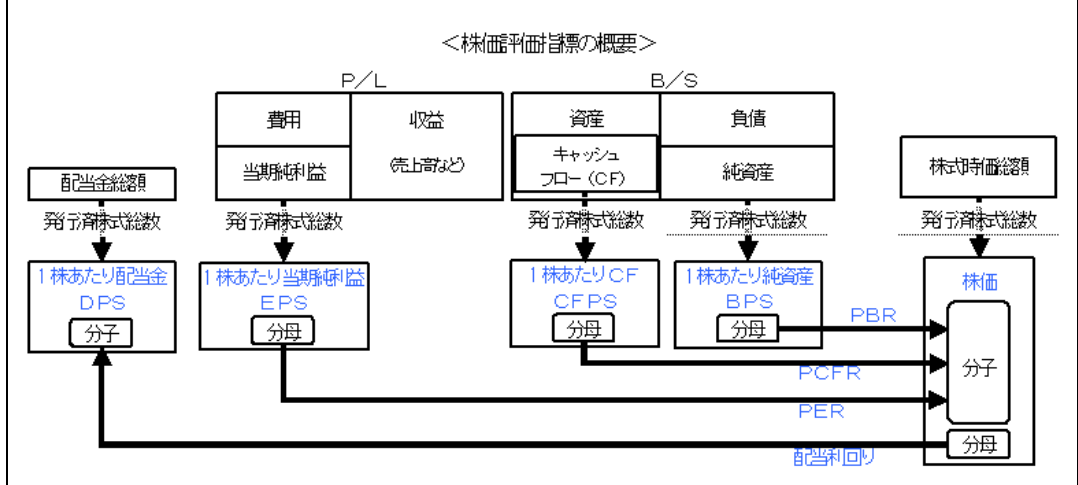
【解説のポイント】※本問を解く上で参考となる学習分野

Focus テキスト 8-2 財務レバレッジ

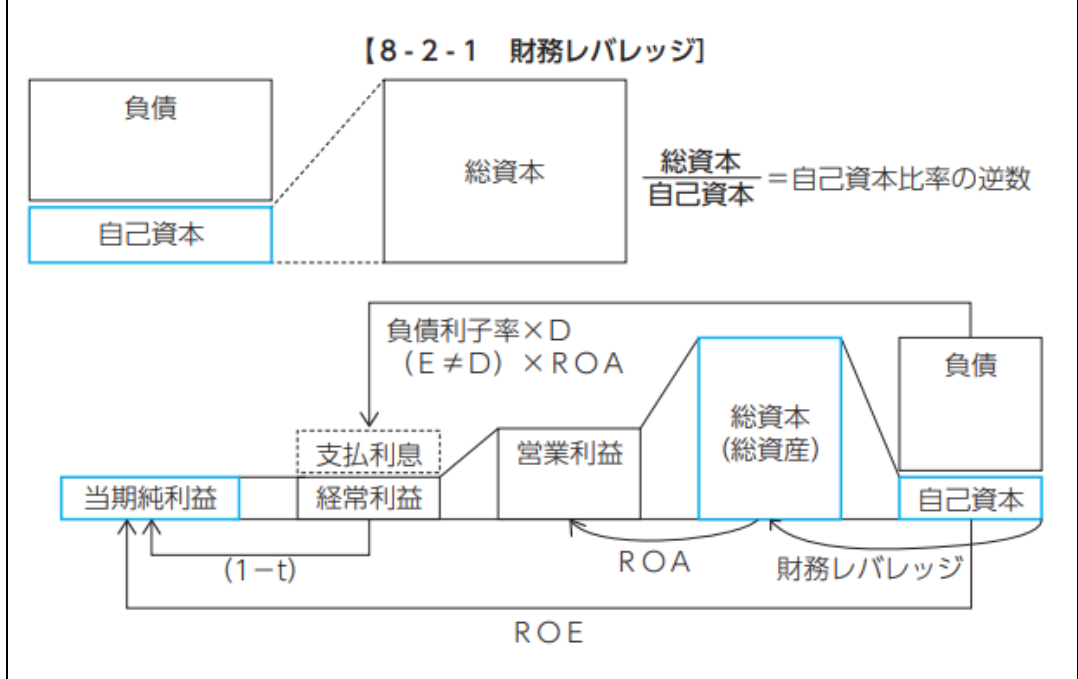
Focus テキスト 2-4 株価や配当などに関する比率



Focus テキスト 2-4 株価や配当などに関する比率：



Focus テキスト 8-2 財務レバレッジ



1－6 正解選択肢の統計

H18～R04（17年分）の正解選択肢の分布

		選 択 肢					合 計
		ア	イ	ウ	エ	オ	
年 度	H18(2006)	4問	7問	8問	7問	0問	26問
	H19(2007)	5問	6問	6問	8問	0問	25問
	H20(2008)	7問	7問	9問	4問	0問	27問
	H21(2009)	3問	11問	5問	6問	0問	25問
	H22(2010)	2問	9問	8問	5問	1問	25問
	H23(2011)	6問	9問	6問	3問	1問	25問
	H24(2012)	7問	3問	8問	7問	0問	25問
	H25(2013)	10問	6問	4問	6問	0問	26問
	H26(2014)	5問	5問	10問	5問	0問	25問
	H27(2015)	4問	4問	10問	6問	1問	25問
	H28(2016)	8問	4問	6問	7問	0問	25問
	H29(2017)	7問	4問	9問	4問	1問	25問
	H30(2018)	5問	5問	9問	6問	0問	25問
	R01(2019)	6問	7問	6問	6問	0問	25問
	R02(2020)	5問	6問	6問	8問	0問	25問
	R03(2021)	2問	7問	9問	7問	0問	25問
	R04(2022)	2問	8問	8問	7問	0問	25問
合計(問)		88問	108問	127問	102問	4問	429問
合計(%)		20.5%	25.2%	29.6%	23.8%	0.9%	100.0%

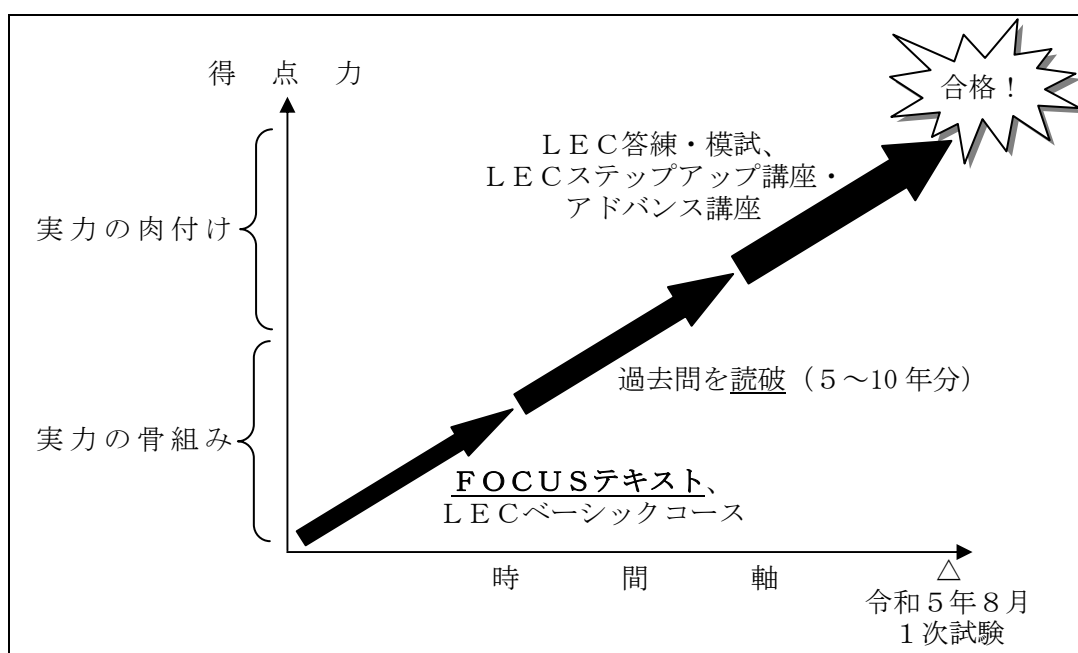
学習計画

自分の状況に応じた着実な学習が結局は近道！

診断士試験の1次試験は、相当に学習を重ねた受験生でも高得点（80点以上）を獲得することが難しい試験である。このことは、圧倒的な「知識力」だけでも、巧みな「解答力」（思考力やテクニック）だけでも対応しきれないということを意味する。

このような試験で合格の栄冠を勝ち取るには、「知識力」と「解答力」をバランスよく身につけることが肝要であり、インプット学習（知識の蓄積）とアウトプット学習（解答力の習得）を、自分の状況に応じてバランスよく着実にを行うことが、結局は合格への近道といえる。

具体的には、来年（令和5年度）の1次試験学習対策として、以下のような段階的な流れを想定し、自分にとって最も効果的な学習方法を探りたい。



以上

中小企業診断士試験
出る順診断士令和4年1次本試験解説
財務・会計

(NL23006)

